

イデックスオイルレポート ~For a month~

(株)新出光

【月次概況】

●第1週、7/5のWTI原油は、先週比1.62ドル高の83.16ドルとなりました。パレスチナ自治区ガザでイスラエルと交戦するイスラム組織ハマスは3日、停戦案を巡る新たな提案を仲介役に伝達したと発表。これを受けて、停戦交渉の行方に期待が広がり、これまで高まっていた地政学的リスクへの警戒感が後退、原油が売られた。

●第2週、7/12のWTI原油は、先週比0.95ドル安の82.21ドルとなりました。米シカゴ大学が午前発表した消費者調査によると、景気先行きに対する消費者の不透明感が示唆され原油売りが先行した。世界最大の石油輸入国である中国の需要先行きに対する不透明感も相場の重しとなった。国際エネルギー機関(IEA)が公表した月報で、中国では景気悪化で2024年4~6月期の消費が減少したことが明らかとなった。

●第3週、7/19のWTI原油は、先週比2.08ドル安の80.13ドルとなりました。プリンケン米務長官は19日、イスラエルとイスラム組織ハマスの停戦協議の合意が間近に迫っていると述べた。中東の供給混乱を巡る懸念から形成されたリスクプレミアムが剥落する格好となり、原油売りが活発化した。

●第4週、7/26のWTI原油は、先週比2.97ドル安の77.16ドルとなりました。エネルギー消費大国である中国の景気先行き懸念が強まる中、原油は売りが優勢となった。中国人民銀行(中央銀行)は25日、注目金利の一つである中期貸出制度(MLF)1年物の金利を予想外に引き下げた。また、パレスチナ自治区ガザをめぐる停戦交渉の妥協が近いとの期待も相場を引き続き圧迫。バイデン米大統領は25日夜、ホワイトハウスで大統領選撤退を説明する演説で、停戦実現を目指して取り組む考えを示した。ハリス米副大統領は25日、訪米中のイスラエルのネタニヤフ首相と会談し、ガザでの停戦合意を迫った。

	7月平均	WTI原油	80.48ドル	前月比	1.78ドル	為替 1ドル	159.16円	前月差	0.27円
--	------	-------	---------	-----	--------	--------	---------	-----	-------

日付	補助金	変動幅	変動幅
7/1~1/3	25.8	+3.0	+3.0
7/4~7/10	28.4	+3.0	+3.0
7/11~7/17	33.4	+2.0	+2.0
7/18~7/24	32.9	-2.0	-2.0
7/25~7/31	30.8	-3.0	-3.0

【単位:円/KL】

メニュー価格推移	0.5HPP		ENEOS LS船用燃料油基準価格	
	2024年4-6月C重油決定価格	102,800	104,800	【102,800(メニュー)+2,000(プレミアム)】
	2024年7-9月C重油仮価格	106,680	109,060	【106,680(メニュー)+2,380(プレミアム)】
	2024年7-9月C重油決定価格			

【単位:円/KL】

内航燃料油価格推移	適合C重油		A重油	
	2024年4-6月決定価格	110,200	116,400	
	2024年7-9月仮価格	114,460		
	2024年7-9月決定価格			

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格 円/kl	通関CIF ドル/bbl	為替レート 円/ドル	原油CIF価格 前月比
	24/6	9桁速報	86,543	87.85	156.62	-353
	24/7	最終予測	86,863	86.30	160.02	320
	24/8	展望	85,825	88.03	155.00	-1,038
	24/9	展望	84,197	88.06	152.00	-1,628

【次世代エネルギー】〈出光と東大、アンモニア製造時のCO2半減 常温で合成〉

出光興産は、東京大学などと組んでアンモニアの新たな製造方法を確立したと発表した。常温・常圧下で水素と窒素を合成することで、現在の手法に比べて二酸化炭素(CO2)の排出量を半減できる。基礎研究を続け、2032年度に年間1000トンの生産量につなげる。現在主流のハーバー・ボッシュ法は水素と窒素を高温・高圧下で反応させるため、製造時にCO2が出る。出光などは金属元素「モリブデン」を使った特殊な触媒を開発し、常温・常圧の環境でもアンモニアを生み出せるようにした。アンモニアの生成速度は電極1センチ平方メートルあたり、1秒につき2マイクログラム(マイクログラムは100万分の1グラム)。出光によると現時点で世界最高性能だという。さらに機能を高めるため研究を続ける。出光は徳山事業所(山口県周南市)で30年までに、現在の手法で生産するアンモニアなどを年間100万トン超供給する体制を整える計画だ。

出典:日経電子版 <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC023ZT0S4A700C2000000/>

【8月価格変動要因】

●経済:短期金利はリーマンショック直後の2008年12月以来、15年7か月ぶりの水準に戻る。日銀会合前までは賃金上昇は確認できるものの国内消費が低調であり利上げ拙速との見方が市場で大宗を占めていたが、7月下旬頃から日銀利上げ検討との報道が断続的に伝わり、ドル円相場はドル安円高傾向を強めていた。FOMCでは政策金利据え置きとなったが、パウエルFRB議長からは9月利下げに向けて意欲的な発言も見られた。米国内のインフレは沈静化に向かっている一方、個人消費は富裕層と低所得者層で二極化している。

●地政学:イスラム組織ハマスの最高指導者イスマイル・ハニヤ氏が訪問先のイランでイスラエル軍によるとみられる攻撃によって死亡したと伝わっている。これによりガザ停戦期待は後退し、地政学リスクプレミアムの上昇に伴い原油価格は騰勢を強めた。イランにとっては面目を潰された格好となり、再びイランとイスラエルとの間で緊張が強まる可能性がある。前回4月は両者自制的な動きにとどまったことでエスカレーションには至らなかった。イラン側の思惑としては長引く西欧諸国の制裁により経済にダメージを負っている中、強大な軍事力を有するイスラエルと衝突する体力は残されているとは考えにくく、今回も抑制的な動きに留まるとの指摘がある。

●リスク資産・金融市場:米国株式中心にリスクオフ傾向を強めた。半導体銘柄に高値警戒感が強い事、先行き業績に不透明感が強まる中でエヌビディア等主要銘柄で売りが強まった。また、月末に日銀・FOMC等主要国の金融政策趨勢への警戒感も強く、リスク選好は控えられリスク資産は価格軟化した。コモディティ市場は原油に限らず非鉄金属市場も含めて全般的に資金流出。金融政策転換への期待感からドル安進行する中で相対的な割安感も意識され、月末週に反発する流れとなった。

<1ヶ月価格見通し> (単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	88	85
Average	82	79
Low	76	73

<3ヶ月価格見通し> (単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	90	87
Average	83	80
Low	77	74

日付	国	8月経済指標カレンダー	日付	国	8月経済指標カレンダー
1	米国	7月ISM製造業景況指数	21	米国	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨
2	米国	7月非農業部門雇用者数変化	23	日本	7月全国消費者物価指数(CPI)
2	米国	7月失業率	23	米国	7月新築住宅販売件数
2	米国	7月平均時給	29	米国	4-6月期四半期実質国内総生産(GDP、改定値)
5	米国	7月ISM非製造業景況指数	30	ユーロ	8月消費者物価指数(HICP、速報値)
14	ユーロ	4-6月期四半期域内総生産(GDP、改定値)	30	米国	7月個人消費支出
14	米国	7月消費者物価指数(CPI)			
15	日本	4-6月期四半期実質国内総生産(GDP、速報値)			
15	米国	7月小売売上高			
20	ユーロ	7月消費者物価指数(HICP、改定値)			